

## トップ直撃インタビュー

# 名城食品(愛知県)

## 藤原正敏 社長

### 就任10年、人材育成に注力

名城食品は、愛知に本社を置くチルドめん専門メーカーだ。主に中部以西で販売し、本紙調べによる市場シェアは業界大手に次ぐ5番手。2021年12月期売上高は前年特需の反動で若干減少したが、平時の19年度比は約110%と善戦した。

藤原正敏社長(写真左上)に2011年のトップ就任から注力してきた人材育成や、直近の重点テーマに掲げるブランド力(商品力)向上の取り組みなどを聞いた。

(聞き手 村岡信二)

〈公正な人事評価で社員  
のやる気引き出す〉

同社は1973年に設立され、翌74年に発売した『3食焼そば』が大ヒット、短期間のうちに業界有数のメーカーに急成長した。しかし、会社の規模に対して組織力の強化が追いつかず、2000年頃から業績も下降線をたどった。そう



した状況を打開すべく、05年に藤原社長がUJ銀行(当時)から出向。その後は経営全般の改革に取り組んだ。

経営幹部や生産現場のレベルアップと並行して、と

くに注力したのは人材育成だという。新たに公正でオープンな人事評価制度を構築し、社員のモチベーションアップを図った。

『賞与評価』

『能力評価』

『自己申告書』

## 第4次中計、ブランド力を強化

強化 ②人材育成 ③DXの推進——を主要テーマに掲げている。①では、賞味期限延長の取り組みを拡大。生産性向上、商品バ

などをと上司と部下の面談を大幅に充実させた。その効果で社員一人一人の現状や考えていることがよく分かるし、我々が正しい方向に導くこともできる。09年から大卒の定期採用を再開し、新人研修の充実にも取り組んできた。近年の離職率は非常に低い」と手応えを口にする。

〈SDGs推進、プラス  
チックトトレ削減へ〉

現在は第4次中期経営計画(21〜23年度)のもと、①ブランド力(商品力)の



が速い。とくに若い世代は新しい感覚を自然と身に付けている。我々も生めんメーカーとし

リユー向上、フードロス削減にもつなげたい考え。またFSSC22000認証取得に全3工場着手。21年5月に滋賀工場、11月に名古屋工場取得し、下関工場は22年5月の取得を目指している。②では、異能人材を新たな価値観をもたらし存在として重要視し、

を始めた。工場で発生する食品残さの有効活用につながっている。また、22年秋冬シーズンから一部商品でプラスチックトトレを廃止する。製造工程や包装形態の見直しが必要になるが、全3工場に新規設備を導入して切り替える。「最近消費者の意識や行動の変化



てチャレンジが必要で、SDGsも重要な考え方の一つ」と将来を見据える。

〈東京に再進  
出し全国メーカー目指す〉

ダイバーシティの観点から女性管理職も徐々に増やしていく方針。藤原社長は「働きやすい環境づくりは大手企業にも負けないくらい早くから取り組んできた」と胸を張る。

一方、SDGsに関わる施策にも意欲的だ。昨年から名古屋と大阪の「こども食堂」にめん類の無償提供

力に展開する。

近年はラーメン類の強化を推進。有名店とのコラボレーション品が好評で、なかでも「2食リンガーハットの長崎ちゃんぽん」がヒットした。21年秋冬の新商品では地元愛知で親しまれる「旨辛スープ」のラーメン店と組んだ「新京ベストコンディションラーメン」、大阪ラーメン激戦区で人気の超濃厚スープを再現した「ラーメン人生丁E T鶏煮込みそば」などの売れ行きが良い。22年春夏に向けては、「C.O.C.O. 香

### 〈会社概要〉

本社住所 愛知県知多郡阿久比町大字卯坂字梅ヶ丘148番地  
 ▼設立 1973年8月27日  
 ▼資本金 7350万円  
 ▼従業員数 283名(2021年4月現在)  
 ▼工場 名古屋工場、滋賀工場、下関工場